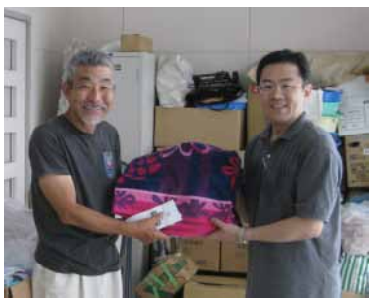


支援紡ぐ中で 東日本大震災復興支援のために

タオルケット配布 会員の協力で250枚

夏期に避難所で暮らす方々のニーズも増え、石巻高校避難所、万石浦中学校避難所、そして、さらには約250枚が寄せられ、手あるうしお荘(社会福祉協議会)や、湊小学校避難所に配布を行った。タオルケットキャンペーンに紹介され万石浦避難所裏より約250枚が寄せられ、手あるうしお荘(社会福祉協議会)や、湊小学校避難所に配布を行った。タオルケットの他、コルマージャパンより提供されたソフトクーラーボックスも大変喜ばれた。ランタンは、石巻市北ランタン200個をコストコホールセールジャパンの協力により配布した。配布は大川小学校の対岸にある。



↑タオルケットを届ける(石巻高校避難所にて)



←リフレッシュ・キャンパ
川遊び



▽1面参照
懇親会では、津波の話やこれまでの経緯、近況が語られた。大川町でも子どもも、都内の避難先ではできなかった体験や交流を楽しんだ。

三菱商事が協賛 リフレッシュ・キャンパ

「少しでも地元に戻りたい」という声から、「自然・緑・山」をテーマにした「リフレッシュ・キャンパ」を開催した。前回は、福島の復興支援に貢献したいという思いから、三菱商事が協賛した。参加者は、大川町で自然の豊かさを体験し、交流を深めた。

石巻ワークキャンプ 専門高校生 17名参加

石巻ワークキャンプに東京YMCA専門高校生有志17名が参加した。被災地ワークキャンプという未知のボラティア活動についても理解を深めて参加を募った。



結果、第6期に6名、第7期には医療福祉専門高校生11名の学生が集まった。学生たちを応援し、校友会や講師が、ボランティア活動を通じて、被災地の復興に貢献したいという思いが、ワークキャンプに繋がった。

直な日記が、ネット上で公開された。一部紹介しているが、被災地に関心をもち、活動に参加している学生も、この機会を通じて、被災地の現状を知り、復興支援に貢献したいという思いが、ワークキャンプに繋がった。

学生のインターネット投稿 (mixi) より

・・・学校でボランティアの話が出たとき、なにかなんでも行かなきゃと思った。(略) 皆で頑張っているけど、広い地域や道は綺麗になっているけど、歩中に入るとお家の中は海底みたい。こんなにも重たいとは、こんなにも泥があるとは。(略) 上手く言葉に出来ないけど、私は絶対に忘れちゃいけないと思う。ワーク中に沢山の方に「ご苦労様」「ありがとうね」と暖かい言葉を頂きました。この機会を与えてくれた教務、一緒に頑張った仲間たち、頑張ってくれてくれた家族、お手伝いをしてくれた野田さん、相澤さんに御礼を申し上げます。ありがとうございます。
ホテル科2年 島根海香 (しまねみか)

女川町 夏祭りに参加

8月15日に女川町夏祭りでの長丁場であった。40名が参加した。被災地の復興を支援する思いで、女川町の復興支援チームとして参加した。夏祭りに参加し、被災地の復興を支援する思いで、女川町の復興支援チームとして参加した。

本間立夫夫妻 表彰 フロストバレーYが功績称え

Hall of Fame 「殿堂」入り
8月6日(土)、フロストバレーYと長男の民夫さん(東京から)が出席された。本間立夫夫妻が、フロストバレーYの功績を称えられた。表彰状を授けられた。功績を称えられた。表彰状を授けられた。

英語・水泳・居場所 各地で子ども支援開始

震災で習い事がなくなった子どもたちへの支援活動を開始した。YMC Aのリンジーが、水泳指導や英語学習の機会を提供している。各地で子ども支援活動が開始された。

松本教実 (フロストバレーY YMC A)

村上祐介 (会員部)